

シャルル3世 (1856 - 1889)



シャルル3世(1818年12月8日—1889年9月10日)は、モナコがイタリア統一運動の変動の真っ只中にあったサルディーニャ王国によって厳しい状況下に置かれていたその中で、オレ5世の弟、父のプロレストン1世(1841-1856)の後を継ぐ。モナコ公国を併合する目的のサルディーニャ王国は1848年にモナコのマントン、ロクブリュヌとモンティの小集落をモナコから割譲させたためモナコは分裂に至ってしまう。一方、フランスはこの状況を利用して1860年3月13日のサヴォア及びニースのフランスへの帰属の可否の国民投票を実施させ手に入れてしまう。そして1861年2月2日のフランス・モナコ条約で割譲されたマントン、ロクブリュヌ及びモンティを賠償金との引き換えに手に入れる。シャルル3世は彼の統治期間中に貨幣製造権を取り戻した。しかしながら、1865年11月9日の協定はパリ造幣局でのみモナコ公国の貨幣製造を義務づけるものであった。



20フラン金貨 シャルル3世



純度 金 900%
外寸 21 mm 縦すじ縁
彫版 ユベール ポンスカム



Gadoury 参照 : MC120

年	重量	製造枚数	MS 63	MS 64	MS 65
1878A	6.45g	50,000	550€	1100€	2200€
1879A	6.45g	50,000	500€	1000€	2000€

詳細



パリの工房の<A>印



蜜蜂
パリの工房



いかり印



国の標語
<我、神のご加護と共にあらん>

